

日本薬剤学会 (APSTJ) ニュース

2

日本薬剤学会の刊行誌紹介

Introduction for Journals Published by APSTJ

はじめに

このたび、社団法人日本薬剤学会は本誌と提携し、新企画として学会活動の紹介、関連情報の掲載、あるいは学会の出版物などを紹介する「日本薬剤学会 (APSTJ) ニュース」のコーナーを設けることになった。前号では、その第1回目として、学会活動の現状と今後の展望を紹介したが、本稿では学会活動の重要な柱である学会誌の編集・出版について紹介し、併せて、将来ビジョン委員会企画のシンポジウムの概要を掲載する。

現在、日本薬剤学会では、公用会誌として「薬剤学—生命とくすり—」(図1)を隔月に刊行し、また、公式英文学術誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology (JDDST)」(図2)をフランス薬剤学会 (Association de Pharmacie Galenique Industrielle: APGI) などと共同で、隔月にEditions De Sante社より

刊行している。それぞれ、薬剤学研究のさらなる発展と充実を目指して刊行されているが、学術論文については、和文か英文であるかによって投稿誌を区別している。

1. 「薬剤学—生命とくすり—」の一般記事

「薬剤学—生命とくすり—」は、日本薬剤学会の公用会誌で、和文の学術論文(一般論文、ノート、寄書)に加えて、会員向けの各種解説記事、一般記事を掲載している。かつて、日本薬剤学会は学術雑誌として「薬剤学」、また会員向け情報を扱う会報として「生命とくすり」を刊行していたが、2003年に出版物の再編成を行い、両誌を統合するとともに、新たに公式英文誌の刊行事業を始めた。現在、本誌の編集は中島恵美委員長(共立薬科大学)を含む8人の委員と、顧問、アドバイザー計5人から成る編集委員会によって行われている。

本会誌は各巻、各界のオピニオンリーダーによる[巻頭言]で始まり、[総説]、[コロキウム]、[フォーラム]、[リレープラザ]、[R&D]、[研究室紹介]、[若手研究者紹介]、[最近のトピックス]、[イントロダクション]、[レポート]、[ニュース・学会だより]など、さまざまなカテゴリーに分類される豊富な内容の記事が掲載されている。

最近の1年間の会誌を振り返ってみると、学術、専門技術分野に関する記事としては、学問分野のまとまった解説である[総説]として「PLGAナノスフェアの設計とDDSへの展開」(愛知学院大学・川島嘉明教授)や「微粒子間付着力の直接測定と応用」(名城大学・砂田久一教授)といった読みごたえのある記事が掲載され、一方、医薬品の開発に向けた技術情報を紹介する[R&D]欄で



図1 会誌「薬剤学—生命とくすり—」の表紙ページ

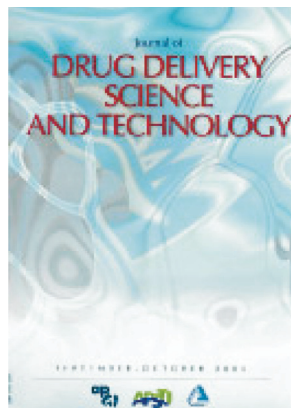


図2 英文学術誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology (JDDST)」の表紙ページ

日本薬学会の刊行誌紹介

は、「固形医薬品の光安定性の評価」、「経肺投与製剤としての開発を目指すナノ粒子含有マイクロスフェア」、「医薬品開発を効率化するトランスポータ機能解析用試薬」、「前臨床R&D研究におけるトランスポータ研究の現状」、「手術後の脳障害発症予知マーカーとしてのグレリン」、あるいは「臨床におけるDDS研究」など、興味ある話題が解説されている。

一方、研究、技術開発の最新的话题を紹介する [最近のトピックス] 欄では、「遠赤外・テラヘルツ分光法とテラヘルツイメージング法」、「光を用いたインビボイメージング法」、「圧縮成形性測定装置」、「外来遺伝子に対する膜透過促進技術」、「システムバイオロジー」、「PET」、「遺伝子多型解析の新技术」、「医薬品の塩選択、結晶多形スクリーニング」、「コエンザイムQ10」、「多孔性ヒドロキシアパタイトを用いた徐放性製剤」などの技術、機器が紹介され、さらに薬剤学の各研究分野における研究基盤、背景を解説する [イントロダクション] 欄では、「薬物消化管吸収の予測」、「薬物経皮吸収研究における先端科学技術」、「薬物代謝酵素の遺伝子多型と医薬品の体内動態」、「薬物トランスポータ」、「化粧品」、「医薬品包装と情報」といった話題から、「病院薬剤師業務と薬剤学」のように医療現場における薬剤学の展開に関する情報まで、幅広く取り上げられている。

また、学会活動の社会的側面に視野を広げた記事として、[フォーラム] 欄では、「薬剤学会の法人化と社会的使命、薬事行政との関わり方」、「医療制度改革、医療法改正と薬剤師」、「薬学教育の国際化」、「薬剤師職能の発展と国際化」、「新設薬科大学における薬剤学教育」、あるいは「薬学教育と同窓会組織」といったテーマで複数の識者の意見を紹介し、さらに、[リレープラザ] においては、「薬学教育6年制」、「大学院教育の改革を目指す文部科学省大学院GPプログラム」、「学校薬剤師の国内外における新しい役割」、さらに「世界における薬剤師の職能」と、各号において複数の著者が話題を繋ぎながら意見を交換している。

上記に加えて、[研究室紹介]、[若手研究者紹介] の欄も大学、医療現場、企業などにおける研究のアクティビティーが幅広く紹介され充実している。また、学会内部、各委員会の活動報告、薬剤学関連諸行事のレポート、行事計画の紹介なども掲載されており、日本薬学会の活動のみならず、日本、世界の薬剤学研究の情報が提供

表1 「薬剤学—生命とくすり—」の最近の掲載学術論文

標準処方への表面改質法の応用	加藤保富(科研製薬)他
生薬製剤の粉末化	—ローラーコンパクターを用いた乾式造粒法について— 小西 興(名城大学薬学部)他
オパルモン錠の加湿下での安定性改善 I	—デキストランまたはデキストリンの添加による安定化— 関屋 昇(小野薬品)他
インスリン注入療法におけるペン型インスリン注入器用注射針32G(テーパー形状)	片山歳也(四日市社会保険病院薬剤部)他
標準処方の直接打錠法への適応に関する検討(2)	—原料の粒子径の影響— 加藤博信(日本新薬)他
生薬粉末の製剤化	—流動層造粒法による生薬の顆粒化について— 小西 興(名城大学薬学部)他
生薬粉末の製剤化	—流動層造粒法による生薬顆粒より製した生薬錠剤について— 小西 興(名城大学薬学部)他
乾式造粒法を用いた口腔内速崩壊錠の調整と評価	—粉末セルロースの賦形剤としての利用— 山田陽子(名城大学薬学部)他

されている。

2. 「薬剤学—生命とくすり—」に掲載される学術論文

本会誌に投稿された学術論文(一般論文、ノート、寄書)は、会誌編集委員会とは独立した組織である「薬剤学」投稿論文審査委員会によって審査され、掲載の採否が決定される。現在、論文の審査には、杉林堅次委員長(城西大学)他11名の薬剤学各領域を専門とする委員が当たっている。

最近の掲載論文を表1に紹介したが、新しい製剤技術の開発に関する研究が報告されている。

3. Journal of Drug Delivery Science and Technology (JDDST)

JDDSTは、旧名称をSTP PHARMA SCIENCESとしていたものであるが、上記「薬剤学—生命とくすり—」の続号の発刊時期とほぼ同じ2003年7月に学会の公式英文誌として位置付けられた。JDDSTの日本側エディターは、川島嘉明教授が務めており、最新号の掲載論文を表2に紹介したが、製剤技術、特にDDSの開発をテーマにした興味深い論文が数多く掲載されている。

表2 英文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology (JDDST)」の最近号(第16巻5号2006)の掲載論文

Chitosan nanocapsules: a new carrier for nasal peptide delivery
C. Prego, D. Torres, M.J. Alonso

Development and characterization of mucoadhesive PHEA-TGA microspheres
M. Bubenik Bilicic, J. Filipovic-Grcic, A. Hafner, B. Zorc, B. Cetina-Cizmek

The effect of complexation on characteristics and drug release from PLGA microspheres loaded by cyclosporine-cyclodextrin complex
B. Malaekheh-Nikouel, S.A. Sajadi Tabassi, M.R. Jaafari, N.M. Davies

In vitro and *in vivo* evaluation in healthy human volunteers of floating riboflavin minitables
J. Goole, J. Hamdani, F. Vanderbist, K. Amighi

Assessment of tableting properties using infinitesimal quantities of powder medicine II
M. Urabe, S. Ito, S. Itai, H. Yuasa

The effect of micronization method on characterization and deposition profiles of different dry powder formulations of cefotaxime sodium
A.R. Najafabadi, R. Asgharian, H. Tajerzadeh, K. Gilani, A. Vatanara, M. Darabi

Electrically-assisted skin delivery of pergolide *in vitro*: effect of pH, donor concentration and surfactants
D.G. Fatouros, A.K. Nugroho, J.A. Bouwstra

Azelaic acid sodium salt in the formulation of microemulsions for topical applications
E. Peira, M.E. Carlotti, M. Trotta

Release characteristics of diclofenac diethylamine from emulgels containing Pluronic F127
E. Khalil, U.F. Schaefer, A. Sallam

Formulation and stability of rofecoxib suppositories
A.E. Abou-Taleb, A.A. Abdel-Rhman, E.M. Samy, H.M. Tawfeek

Evaluation of gellan gum as a potential pharmaceutical adjuvant: binding properties in tablets containing a poorly water soluble and poorly compressible drug
U.O. Ike-Nor, S.I. Ofoefule, A. Chukwu

4. 日本薬剤学会優秀論文賞

日本薬剤学会では、上記学術誌の刊行と併行して、優れた掲載論文を顕彰するため、日本薬剤学会優秀論文賞を制定している。本賞は、投稿論文数の増加を図ること、および学会誌の質の向上を図ることを目的として制定され、「薬剤学」、「JDDST」から合わせて2編以内を選考する。選考対象者は日本薬剤学会会員であれば、日本人、外国人は問わない。

おわりに

以上、本稿では学会活動の要とも言える刊行学会誌について紹介した。「薬剤学—生命とくすり—」は、すべての本学会会員に配布され、「Journal of Drug Delivery Science and Technology (JDDST)」誌も会員の定期購読には便宜が図られている。両誌には、国内あるいは世界レベルでの薬剤学、製剤工学、医薬品生産等に関する最新研究成果、学術動向、あるいは薬事行政、医薬品産業、医療、薬学教育の動静が紹介されている。日本薬剤学会では、刊行する両学術誌がさらに薬剤学研究の発展に貢献できるように努力を続けたい。

(京都大学大学院・橋田 充)

第4回日本薬剤学会将来ビジョン委員会主催シンポジウム

将来ビジョン委員会では、薬剤学分野が将来目指す研究を象徴する言葉として“システム薬剤学”を掲げ、その研究の方向を具体的に考える場として将来ビジョン委員会主催のシンポジウムを開催している。本シンポジウムは、さまざまな科学分野で活躍されている第一人者の先生を交えてブレインストーミングを行うというユニークな形のシンポジウムである。今回は、「システム薬剤学の実践に向けて—人工システムの設計と最適化—」と題して、材料工学、再生工学・医療の分野で活躍されている3名の先生を招待し、“システムとは何か”、“システムを制御するには何が必要か”という本質的な問題について議論する。

日時：3月10日(土)
会場：共立薬科大学

プログラム

10:30~10:40 開会の辞
10:40~11:30 「システム薬剤学について考える」
(京都大学大学院薬学研究科・山下富義)
11:30~12:00 薬剤学会の将来像に関する意見交換—学会活動への提言—
13:00~13:05 シンポジウム趣旨説明
13:05~14:05 「再生医療と薬学の接点—細胞マトリックス工学による肝細胞・幹細胞の機能制御—」
(東京工業大学大学院生命理工学研究科・赤池敏宏)

14:05~15:05 「幹細胞を用いた細胞療法および再生医療」
(理化学研究所バイオリソースセンター・中村幸夫)
15:25~16:25 「生体システムに学ぶ材料設計：シャペロン機能工学による蛋白質の再生、集積制御」
(東京医科歯科大学生体材料工学研究所・秋吉一成)
16:25~16:40 将来ビジョン委員会からの研究提言
16:40~17:20 総合討論
17:20~17:30 閉会の辞

【参加費】一般4,000円(当日5,000円)、学生1,000円(当日も同じ)、懇親会3,000円(当日4,000円)

【事前登録】3月2日まで。詳細はホームページ(<http://dds.pharm.kyoto-u.ac.jp/vision2007/top.html>)を参照。